

令和3年2月4日

審査経過及び講評

新佐渡市立両津病院基本設計事業受託者選定委員会

1 委員構成

委員長 佐渡市副市長 伊貝 秀一
委員 伝統文化と環境福祉の専門学校講師 一級建築士 長谷川 英夫
委員 県佐渡地域振興局健康福祉環境部長 儀同 政宏
委員 両津病院院長 石塚 修
委員 市役所建設課長 清水 正人
委員 市役所企画課長 猪股 雄司
委員 市役所両津支所長 伊藤 賢治
委員 両津病院管理部長 伊藤 浩二

2 審査経過

今回の基本設計者選定にあたっては、新佐渡市立両津病院基本設計業務委託公募型プロポーザル実施要領及び新佐渡市立両津病院基本設計事業受託者選定委員会（以下、「選定委員会」という。）を設置し、公募型プロポーザル方式に係る手続き開始の公告等を令和2年11月27日付けで公告した。

【参加資格確認及び一次審査】令和2年12月16日（水）

- ・令和2年12月11日（金）に参加表明書の受付を締め切り、5者から参加表明書の提出があった。
- ・参加表明書の提出があった応募者に対して、プロポーザル実施要領の「4 応募資格」に沿って要件を確認し、すべての応募者が参加資格を満たしている事を確認した。
- ・一次審査においては、事務所の評価、担当チームの評価、地元企業活用の評価について項目に沿って審査を実施した結果、応募のあった5者を一次審査通過者として選定した。
- ・一次審査の結果は、原則、二次審査の結果に影響しないものであるが、評価の概要は以下のとおりである。

(1) 事務所の評価

- ・一級建築士の技術者数は、応募者すべてが40人以上の一級建築士を有しており差は生じなかったが、病院設計の実績評価において、提出実績の数により最高得点者と最低得点者について、10点の差が生じた。

(2) 担当チームの評価

- ・専門分野の技術者資格及び経験年数について、大きな差は生じなかったものの、管理技術者の実績評価においては最高得点者と最低得点者で5点、意匠主任技術者の実績評価においては最高得点者と最低得点者で9点の差が生じた。

(3) 地元企業活用の評価

- ・各社とも新潟県内に本社を有する設計事務所との共同企業体を結成の上、応募されたため評価に差は生じなかった。

【二次審査】令和3年1月31日（日）

- ・一次審査を通過した5者に対し、令和3年1月31日（日）に二次審査の公開ヒアリングを実施した。なお、コロナ禍での開催にあたり、WEB 会議システムを利用したオンライン形式でのプレゼンテーション審査とヒアリングを行った。
- ・二次審査においては、管理技術者および意匠主任技術者の積極性・意見集約力・コミュニケーション能力の評価、担当チームの業務理解度の評価、実施方針及び評価テーマ①～④に対する技術提案書の的確性、独創性、実現性、価格点について総合的審査を実施した。
- ・公開ヒアリング実施後に、選定委員会を開催し、最優秀者及び優秀者を選定した。

(1) 得票数及びその順位

- ・各評価項目に対する選定委員の採点結果をもとに、選定委員が一人一票ずつを投票した。
- ・選定委員全員の確認のもと、以下のとおりの得票結果から、最優秀者及び優秀者を選定した。
なお、選定にあたっては、匿名性を確保するため、社名は伏せて審査を行なった。

二次審査における得票数

	得票数
A社	1票 / 8票中
B社	1票 / 8票中
C社	5票 / 8票中
D社	0票 / 8票中
E社	1票 / 8票中

以上の結果より、最優秀者及び優秀者を下記のとおり選定した。

なお、優秀者については、二次審査の得票数が3社で同数となったため、二次審査における総合計点数の高いA社を選定した。

最優秀者 C社：安井建築設計事務所・ワシツ設計共同企業体

優秀者 A社：伊藤喜三郎建築研究所・基設計 設計共同企業体

(2) 最優秀者提案の講評

最優秀者として選定されたC社は、佐渡市の環境や現地の状況を十分に理解していることが表れた優れた技術提案であった。

特に、病棟の平面計画について、病棟内の動線短縮やスタッフステーションから病室の見守りやすさの視点など、患者の安全性と職員の働きやすさを重視した提案が高く評価された。

一方で、動線短縮を図るための4床室の配置上、病棟外壁面に凹凸が生じるプランについては、イニシャルコストやメンテナンスコストの点での懸念事項を指摘する意見もあり、基本設計を行う中でさらなる検討を重ね、改善提案が望まれるところである。

ヒアリングにおける管理技術者、意匠主任技術者の説明の明瞭さ及び質疑への回答能力への評価も高く、総合的評価として最優秀者として選定された。